

みなみあそてつどうかもりえきしゅうへんちく 南阿蘇鉄道高森駅周辺地区都市再生整備計画事業(熊本県高森町)

本年度ver.

R2.12月時点

- ◆事業概要: 人と二次交通機能の集約と利用者の利便性を向上し、安全・安心で観光客をはじめ利用者の全てが心地よい交流拠点を実現する
- ◆事業主体: 熊本県高森町 ◆面積: 56.5ha ◆交付期間: 令和3年度～令和4年度
- ◆全体事業費: 358百万円 ◆交付対象事業費: 344.5百万円(国費: 137.8百万円) ◆国費率: 40%



高森駅前広場イメージ



R3年度事業内容: 本工事

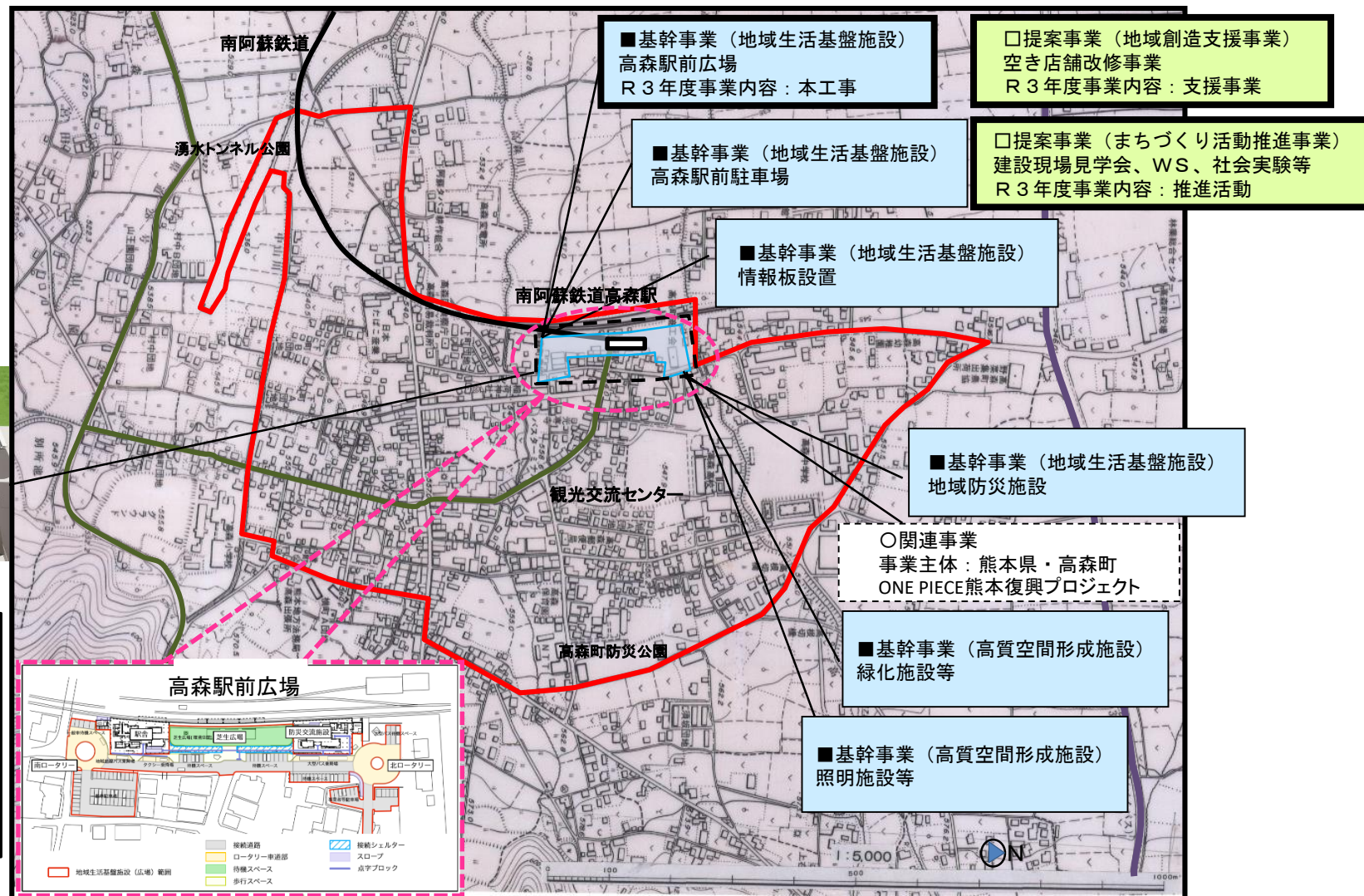
— : 都市再生整備計画の区域

■ 基幹事業

□ 提案事業

(参考) ○ 関連事業

□ : R3年度事業箇所



みなみあそてつどうたかもりえきしゅうへんちく 南阿蘇鉄道高森駅周辺地区都市再生整備計画事業(熊本県高森町)

次年度ver.

R2.12月時点

- ◆事業概要: 人と二次交通機能の集約と利用者の利便性を向上し、安全・安心で観光客をはじめ利用者の全てが心地よい交流拠点を実現する
- ◆事業主体: 熊本県高森町 ◆面積: 56.5ha ◆交付期間: 令和3年度～令和4年度
- ◆全体事業費: 358百万円 ◆交付対象事業費: 344.5百万円(国費: 137.8百万円) ◆国費率: 40%



高森駅前広場イメージ



R4年度事業内容: 本工事

— : 都市再生整備計画の区域

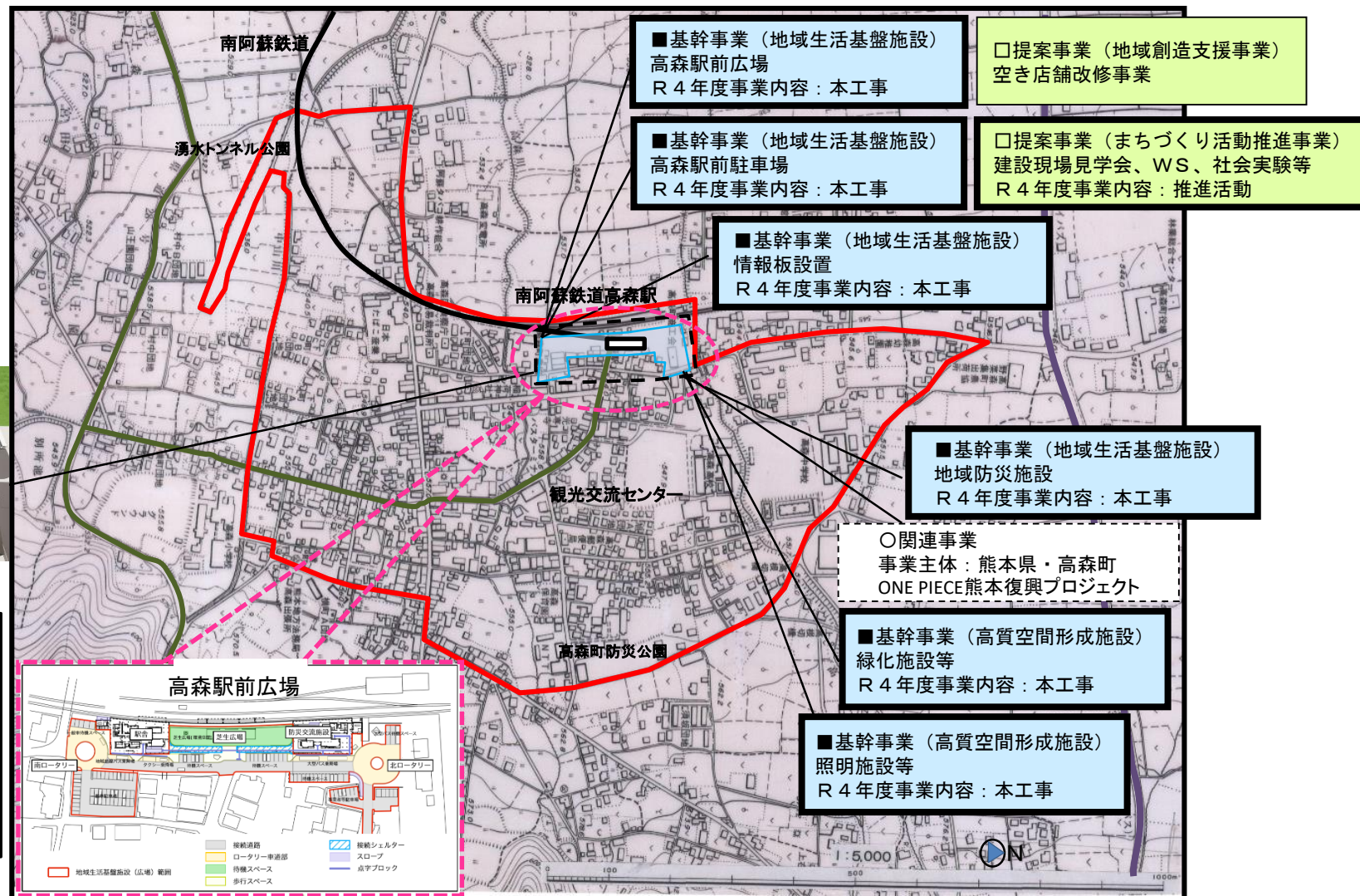
■ : 基幹事業

□ : 提案事業

(参考)

○ : 関連事業

□ : R4年度事業箇所



みなみあそてつどうたかもりえきしゅうへん ち く くまもとけんたかもりまち
南阿蘇鉄道高森駅周辺地区（熊本県高森町）

（都市再生整備計画事業）

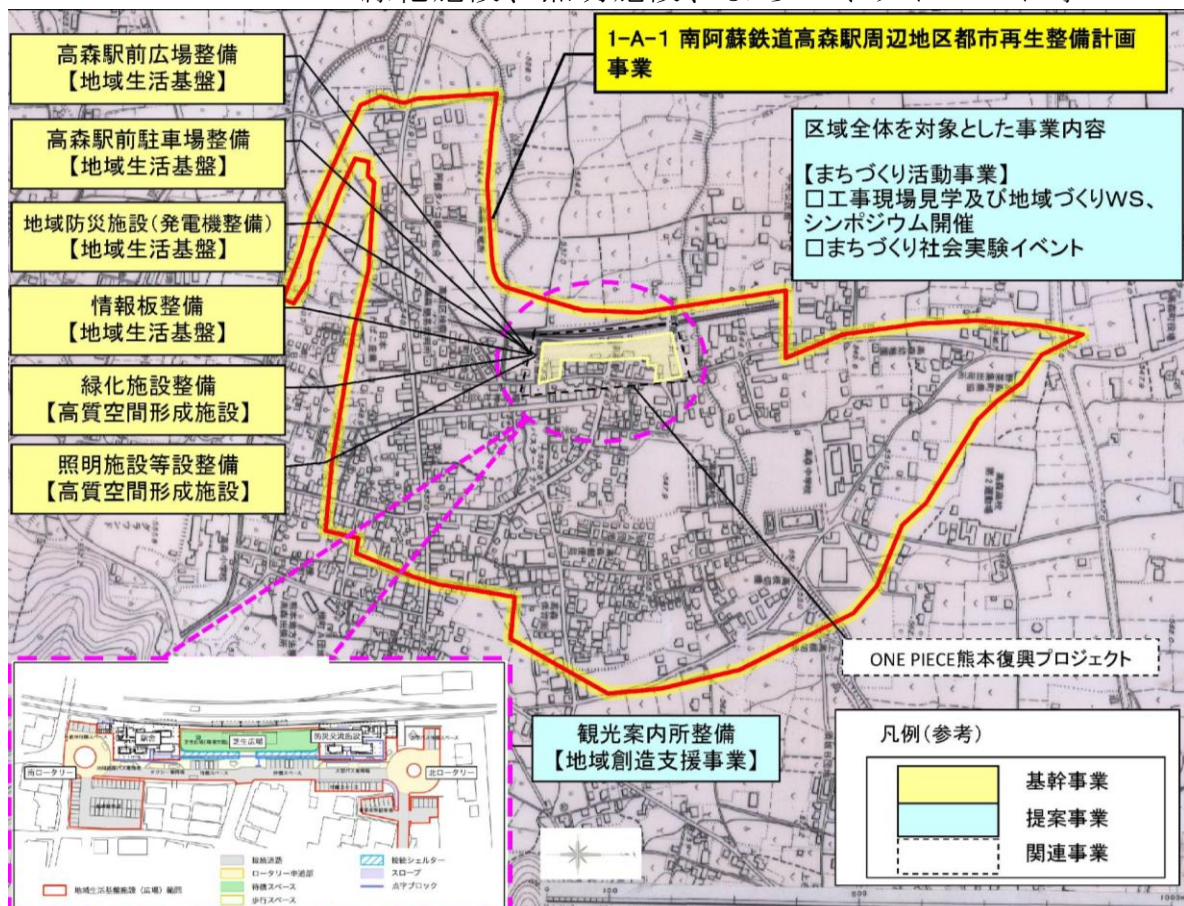
1. 地区概要

本地区は、南阿蘇鉄道高森駅周辺の地区で、阿蘇くじゅう観光圏における南阿蘇エリアの中核拠点の役割を有す。しかし、交通結節機能が脆弱で観光利用者の利便性が乏しく、加えて過疎・高齢化や、国道325号線沿線への店舗等の立地による、駅周辺地域の空洞化や、駅周辺の機能不足により、高森駅を訪れる観光客の満足度や訴求力、恒常的な観光客の獲得には繋がっていない。このことから、観光圏戦略と連携したまちづくりを推進する為に、本町の観光の玄関口であり重要な公共交通機関である高森駅周辺地区を最重要拠点と位置づけ、観光客の利便性や安全性を兼ね揃える拠点として整備し、当地区を訪れる観光客と地域住民との関わりの創出による持続可能な観光振興によるまちづくりの達成を目指す。

2. 計画内容

所在地：熊本県高森町
事業主体：高森町
面積：56.5ha
交付期間：令和3年度～令和4年度
事業費：全体 344.5百万円
(国費：137.8百万円)

事業内容：駅前広場、駅前駐車場、情報板、地域防災施設、緑化施設、照明施設、まちづくりイベント等



社会資本総合整備計画

みなみあそてつどうたかもりえきしゅうへんちくとしさいせいせいびけいかく
南阿蘇鉄道高森駅周辺地区都市再生整備計画

くまもとけん たかもりまち
熊本県 高森町

令和2年12月

(参考様式2) 社会資本総合整備計画

令和2年12月1日

計画の名称	南阿蘇鉄道高森駅周辺地区都市再生整備計画										重点配分対象の該当						
計画の期間	令和3年度～令和4年度(2年間)					交付対象	熊本県高森町										
計画の目標	人と二次交通機能の集約と利用者の利便性を向上し、安全・安心で観光客をはじめ利用者の全てが心地よい交流拠点を実現する ・公共交通の観光利用の利便性を図る交通結節機能の強化によるまちづくりに必要な拠点施設の再構築 ・阿蘇くじゅう国立公園の観光資源と公共交通を融合した観光魅力の向上によるまちづくり ・地域唯一の鉄道に地域住民の矜持を育み観光客等との交流を創出する住民活動の活性化																
計画の成果目標(定量的指標)																	
・高森町の観光施設等を訪れた「日帰り観光客数」793,320人(R1)から1,000,000人(R5)へ増加 ・「南阿蘇鉄道年間輸送人員数」を36,670人(R1)から75,000人(R5)へ増加 ・「駅周辺での住民活動回数」を2回(R1)から6回(R5)へ増加																	
定量的指標の定義及び算定式																	
熊本県が毎年実施している熊本県観光統計調査による「高森町の観光施設等を訪れた日帰り観光客数」 高森駅の年間利用者数(南阿蘇鉄道株式会社の集計システムによる集計) 駅施設又は駅広場を利用して地域住民等が自発的にイベントを開催する回数を南阿蘇鉄道(株)がカウント										定量的指標の現況値及び目標値			備考				
										当初現況値 (R1)	中間目標値 -	最終目標値 (R5末)					
										793,320人	-	1,000,000人					
										36,670人/年	-	75,000人/年					
										2回	-	6回					
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	344.5 百万円	A	344.5百万円 (うち提案事業 分11百万円)	B	0.0 百万円	C	0.0 百万円	D	—	効果促進事業費の割合 (C+提案事業) / (A + B + C + D)	3.19%					
交付対象事業																	
A 基幹事業																	
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
1-A-1	都市再生	一般	高森町	直接	高森町	南阿蘇鉄道高森駅周辺地区都市再生整備計画事業	駅前広場他	高森町	R 3	R 4				344.5			
合計													344.5				
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考
									H29	H30	H31	R2	R3				
合計													0.0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	
C 効果促進事業																	
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
									H29	H30	H31	R2	R3				
合計																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																	
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
									H29	H30	H31	R2	R3				
合計													0.0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考	

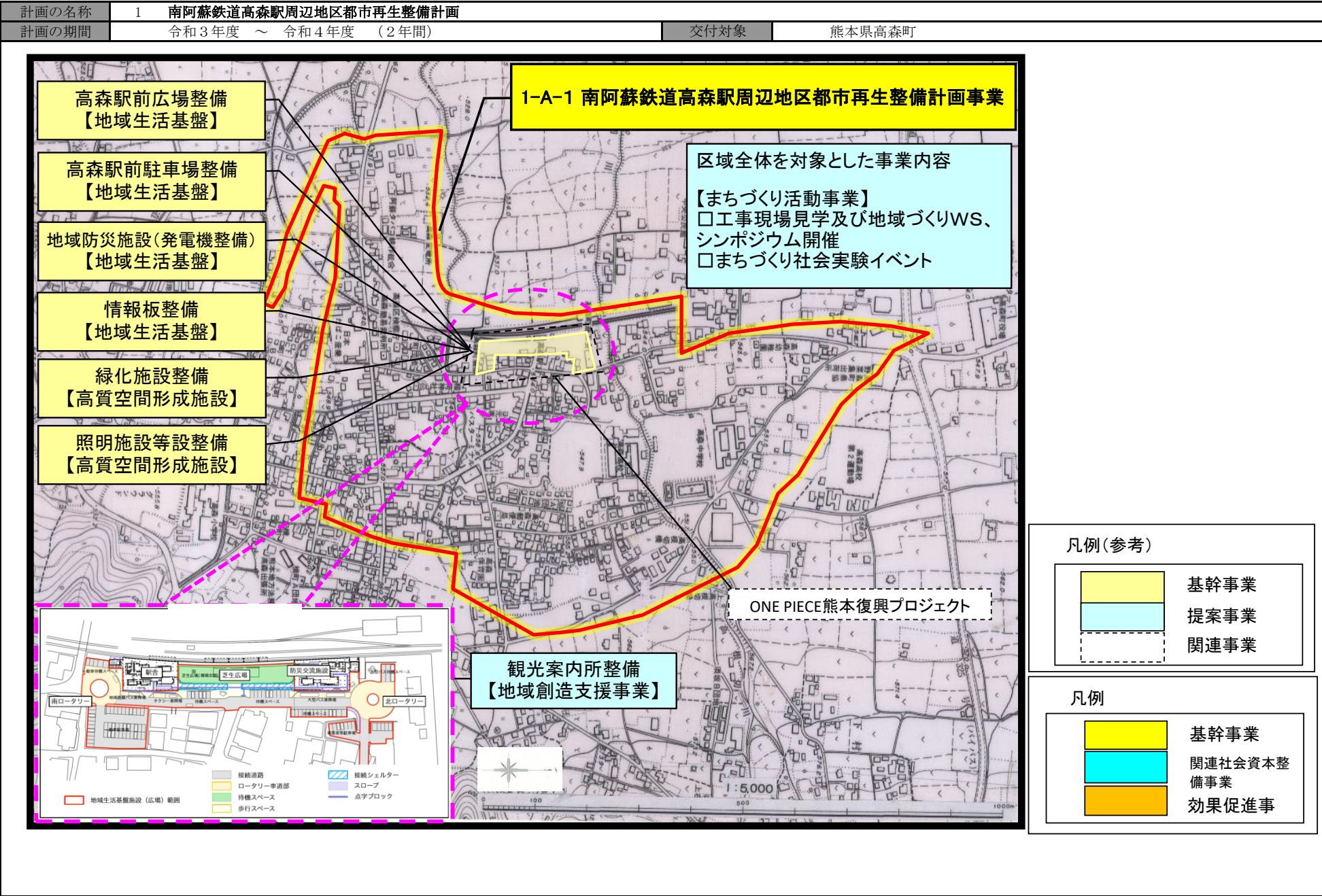
交付金の執行状況

(単位:百万円)

	R3	R4			
配分額 (a)					
計画別流用 増△減額 (b)					
交付額 (c=a+b)					
前年度からの繰越額 (d)					
支払済額 (e)					
翌年度繰越額 (f)					
うち未契約繰越額 (g)					
不用額 (h = c+d-e-f)					
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))					
未契約繰越＋不用率が10%を超えている 場合その理由					

※ 平成26年度以降の各年度の決算額を記載。

(参考図面)



都市再生整備計画

みなみ あ そ てつ どう た か も り え き し ゅ う へ ん
南阿蘇鉄道高森駅周辺地区

く ま も と け ん た か も り ま ち
熊本県 高森町

令和2年12月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業	☒
まちなかウォークアブル推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	熊本県	市町村名	高森町	地区名	ミナミアソノ・サツバウ・タカモリ・エキシユウヘン・チダ 南阿蘇鉄道高森駅周辺地区	面積	56.5 ha
計画期間	令和 3 年度 ～ 令和 4 年度	交付期間	令和 3 年度 ～ 令和 4 年度				

目標

人と二次交通機能の集約と利用者の利便性を向上し、安全・安心で観光客をはじめ利用者の全てが心地よい交流拠点を実現する

・公共交通の観光利用の利便性を図る交通結節機能の強化によるまちづくりに必要な拠点施設の再構築

・阿蘇くじゅう国立公園の観光資源と公共交通を融合した観光魅力の向上によるまちづくり

・地域唯一の鉄道に地域住民の矜持と観光客等との交流を創出する住民活動の活性化

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

高森町は、観光地域整備法に基づく「阿蘇くじゅう観光圏」にあり、阿蘇山の麓、熊本県の最東端、北は大分県竹田市、南は宮崎県高千穂町との三県境に位置し、阿蘇ジオパークとしてユネスコに登録されている豊かな自然景観の中を走る南阿蘇鉄道の沿線地域である。主産業は観光業と農林業であり、行政機能や商業施設等が集積され、南阿蘇地域の中心的機能を有する。人口は1960年頃にピークとなり約14,000人となったが、その後現在まで減少が続く、現在は約6,500人となり、このまま人口減少が続けば、2060年には人口が3,000人を切り、高齢化率も50%を超えるなど、町の機能維持が難しい状況になることが想定される。

本地区は「阿蘇くじゅう観光圏」の南阿蘇エリアの中心エリアで、エリア最大の商店街を有する高森町の中心部に位置し、地域住民の移動とトロッコ列車による観光客の入込みを支える地域唯一の鉄道交通機関である南阿蘇鉄道の本社機能を有する高森駅や、駅を起点として商店街や観光施設、住宅が存在する地域である。しかし、過疎・高齢化や、国道325号線沿線への店舗等の立地による、駅周辺地域の空洞化や、駅周辺の機能不足により、高森駅を訪れる観光客の満足度や訴求力、恒常的な観光客の獲得には繋がっていない。また、南阿蘇鉄道は平成28年4月に発生した熊本地震により、線路の流出やトンネルの崩落、橋梁の損壊などや甚大な被害を受け、現在は一部区間において運行をしているが、未だに鉄道による熊本市圏とのアクセスが断絶している状況である。震災前に約25万人あった利用者数が翌年には約4万人へと激減し、利用者のみならず観光業及び経済への影響は大きく、令和5年夏と予定された全線開通を見据え、阿蘇くじゅう観光圏整備計画や本町で進めるマンガやアニメといったエンターテインメント業界と連携した観光による地域づくりと熊本地震からの創造的復興を推進しなければならない。

そこで町では、「阿蘇くじゅう観光圏整備計画」及びまちづくりに関する諸計画により、観光戦略と連携したまちづくりを推進する為に、本町の観光の玄関口であり重要な公共交通機関である高森駅周辺地区を最重要拠点と位置づけ、観光客の利便性や安全性を兼ね揃える拠点として整備を計画し、熊本地震復興事業「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」により先行して今年11月に設置される人気キャラクター像設置による観光客についても新しい観光拠点で受入れ、当地区を訪れる観光客と地域住民との関わりの創出が可能とする持続可能な観光振興と地域活性化が求められている。

課題

・高森駅を訪れる観光客の誰もが目指し、集える空間になるためには、人・自動車・家用車・二次交通車両が便利に、安全に通行でき、インバウンドも含め多様な人々が集える環境整備が必要である。そのため、施設内のロータリーの整備や歩行空間の確保等により、安全性を担保する拠点整備が求められる。

・地域住民のみならず、観光客等が安心して利用できる施設となるためには、阿蘇の環境を満喫できる等便利で心地よい空間の形成が必要である。その為、共有広場やスペースの整備、交通結節機能の強化等により、利便性、快適性の高い拠点整備が求められる。

・有事の際に、来訪している観光客の安全を確保するために、熊本地震の経験に基づいた、車中避難行動等を支えるための駐車場機能を有する活動拠点の整備が求められる。

・駅周辺の賑わい創出の為に、地域住民活動の活性化が必要であり、交流人口を迎え入れるための環境整備に加え住民意識の向上による、誰もが活動、交流できる場や環境の整備とまちづくりへの参画意識の醸成するための活動性の高い拠点整備が求められる。

将来ビジョン(中長期)

当地区の将来ビジョンを描いている上位計画は「阿蘇くじゅう観光圏整備実施計画」、「高森町総合計画後期基本計画」、「第2期高森まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「第2期高森町観光立町推進計画」、「高森町復旧・復興計画」、「南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画」の6つである

【阿蘇くじゅう観光圏整備実施計画】：南阿蘇鉄道を基軸とした持続可能な公共交通網の形成について、地域連携のうえ取り組む。駅に集まりやすく、駅を経由して移動しやすい環境を整えるため、各公共交通機関との結節強化について取り組むこととし、南阿蘇鉄道の発着駅である高森駅の周辺整備事業を実施。

【高森町総合計画後期基本計画】：定住・観光、防災の拠点となる「南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発」、住民、国内外の観光客、他利用者ニーズに応じたわかりやすい玄関口としての「新高森駅周辺」整備の実施

【第2期高森まち・ひと・しごと創生総合戦略】：わかりやすい地域交通の実現に向けた環境整備。南阿蘇鉄道の全線運行再開を見据えて、始発・終着駅である「高森駅」を本町の 観光の玄関口及び関係人口の交流・防災及び駅からの二次交通機能を含めた拠点として整備することで、観光・コミュニティ・二次交通のワンストップ化を図る。

【第2期高森町観光立町推進計画】：わかりやすい玄関口として、町民や国内外の観光客等、利用者のニーズに応じた新高森駅周辺の整備を実施。

【高森町復旧・復興計画】：熊本地震からの創造的まちづくりの復旧・復興としてインフラ等の整備を行うこととし、その中で防災拠点を整備することを定めている。今回整備する防災交流施設は高森町中心部の防災拠点としても活用を計画している。

【南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画】：定住・観光・防災等、まちづくりに必要な鉄道駅の拠点役割の強化として、高森駅及びその周辺整備の実施を定めており、地域住民の憩いの場や防災・観光の拠点として、また、各公共交通機関の結節強化を行うこととしている。

以上のとおり、本町は、高森駅周辺地区の再開発により、高森駅を重要拠点に据えた観光によるまちづくりを公共交通の結節強化と共に推進し、かつ、高森町への観光客等の関係人口創出の為に玄関口としての機能向上を図る事で、地域住民とともに持続可能なまちづくりを展開する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
高森町への入込観光客数	人	毎年実施される熊本県観光統計調査で計上される高森町の観光施設等を訪れた日帰り観光客数	現状の高森駅は熊本市と隣県の高千穂町や延岡市を結ぶ路線バスが停留せず、観光客のニーズを満たしておらず、自家用車以外での観光地周遊は困難である。高森駅周辺を南阿蘇鉄道を中心としたバスやタクシーの地域公共交通と周辺観光地との連携強化による観光周遊の起点化や観光客の利便性を満足する拠点として整備する事で、特に自家用車を利用しない観光スタイルの訴求力を高め高森町への入込観光客集を増加する。	793,320	R1	1,000,000	R5
南阿蘇鉄道年間輸送人員数	人／年	南阿蘇鉄道高森駅で鉄道に乗車または鉄道を降車した利用者の数	震災前(H28以前)の南阿蘇鉄道の利用客数は、観光需要に支えられ一方で、人口減少の煽りを受け、通勤、通学、通院の利用者数は減少傾向であった。鉄道を中心とした二次交通との結節拠点として駅舎周辺施設を整備する事で、整備空間の快適性、利便性を担保し熊本地震からの観光需要の再獲得に合わせ一般新規利用者を創出する。	36,670	R1	75,000	R5
駅周辺での住民活動回数	回／年	駅広場、施設等で実施された住民活動の回数	現状の駅催し広場は、老朽化したステージと未整地の広場しかなく、トロッコ列車とのイベント連携が出来難いロケーションに位置するなど賑わいの創出環境が整っていない。また、イベント時には駐車場が少なく集客能力も欠如している。そのため、広場に地域住民が活動できる空間を全天候型で整備する事により、地域住民等の活動の活性化を図り、継続した賑わいを創出する。	2	R1	6	R5

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針 ・整備方針1 誰もが安全に集い、快適な居場所となる環境整備による観光客の利便性の創出 ○観光客の誰もが安全に鉄道を利用でき、鉄道からバス等への2次交通についてもスムーズに利用できるよう駅前空間を形成する。 ○有事の際に観光客が安全に身を守る事ができる機能を有した駅前空間を整備する。 ○イベント等に活用できる多目的の芝生広場やステージを整備し、住民と観光客の交流が図れ、また、憩いの場としてだけでなく、様々な集客イベントの開催を支援することで観光客へ魅力ある中心市街地への玄関口を創出し、町のシビックプライドを醸成する。 ・整備方針2 交通結節のコンパクト化を備え、的確な情報を提供する観光拠点の整備 ○駅前広場が備えるべき多様な機能を充実し、観光客の利便性、快適性の高い空間を形成する。 ○トロコ列車の利用を目的に大型バスの団体やマイカーで駅を訪れる観光客の利便性を創出する為の環境を充実する。 ○町内各地に観光施設への移動手段となる路線バス、タクシーとの接続を強化する交通結節点を整備し、町中心部及び観光施設への回遊拠点を整備する。 ○駅を利用する観光客に対しわかりやすい鉄道やバスの運行情報、有事の際の緊急情報が提供される情報板を整備し、観光客の利便性と安心安全を担保する。 ○観光協会と地域版DMOが施設統合により運営する観光案内所を駅前の店舗の未使用部分を改修し、観光推進団体と連携した観光客への情報提供による利便性の向上を図り、商店街への集客を強化する ・整備方針3 産学官・地域住民連携による多様な活動を創出する観光拠点の整備 ○多様な観点から観光客、地域住民が集い、交流人口を受け入れる活動を活性化する拠点を形成する ○地域住民が様々な業種、機関等と連携し自主的に行うまちづくりを支援する	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】(地域生活基盤施設／駅前広場整備事業) 【基幹事業】(地域生活基盤施設／駅前駐車場整備事業) 【基幹事業】(高質空間形成施設／緑化施設等) 【提案事業】(まちづくり活動支援事業／駅前空間賑わい創出事業) 【基幹事業】(地域生活基盤施設／駅前広場整備事業) 【基幹事業】(地域生活基盤施設／駅前駐車場整備事業) 【基幹事業】(地域生活基盤施設／情報板) 【基幹事業】(地域生活基盤施設／地域防災施設) 【提案事業】(地域創造支援事業／空き店舗改修) 【基幹事業】(地域生活基盤施設／駅前広場整備事業) 【基幹事業】(高質空間形成施設／緑化施設等) 【提案事業】(まちづくり活動支援事業／駅前空間賑わい創出事業)
その他	
■ 地域住民参加による事業の実施 ・本都市再生整備計画は、当町が面する課題や基本的な方針などを整理した「南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グランドデザイン」を策定する段階で、合計6回、102名の住民よりヒアリングを行うと共に、高森町ホームページや、全世帯が視聴する光ケーブルテレビによる住民説明を実施し、住民や駅利用者のニーズの把握に重点を置き、事業に対する住民参画意識の高揚を図ってきた。今後は、町の観光の玄関口となる当計画の実施においても、次の方法で住民に対し十分な情報共有と体験共有の機会を設け、町のシビックプライドの醸成に努めるものとする。 ①住民参加の工事見学会の実施 ②町民・地元高校生を対象としたワークショップによる住民参画の意識向上 ③ピクニック形式の広場利用のプレイイベント開催と芝生広場の運営を考える勉強会の実施 ■ 事業の継続的な推進体制の構築について ・設定目標の確実な達成の為、各種事業を円滑に効果的に進める事で、施設が長期にわたって地域活動の拠点として継続するよう、行政・地域・運営事業者等の産学官連携による意思疎通を形成する推進体制を設置し、事業の専門的検証や進行管理、調整等を行う推進体制を構築する。 ■事業終了後の継続的なまちづくり ・観光拠点施設の整備で実現する安心・安全な駅周辺空間のフル活用による、利活用や維持管理を通じて、産学官が連携しまちづくり活動を継続的に推進する。	

様式(1)-④-2

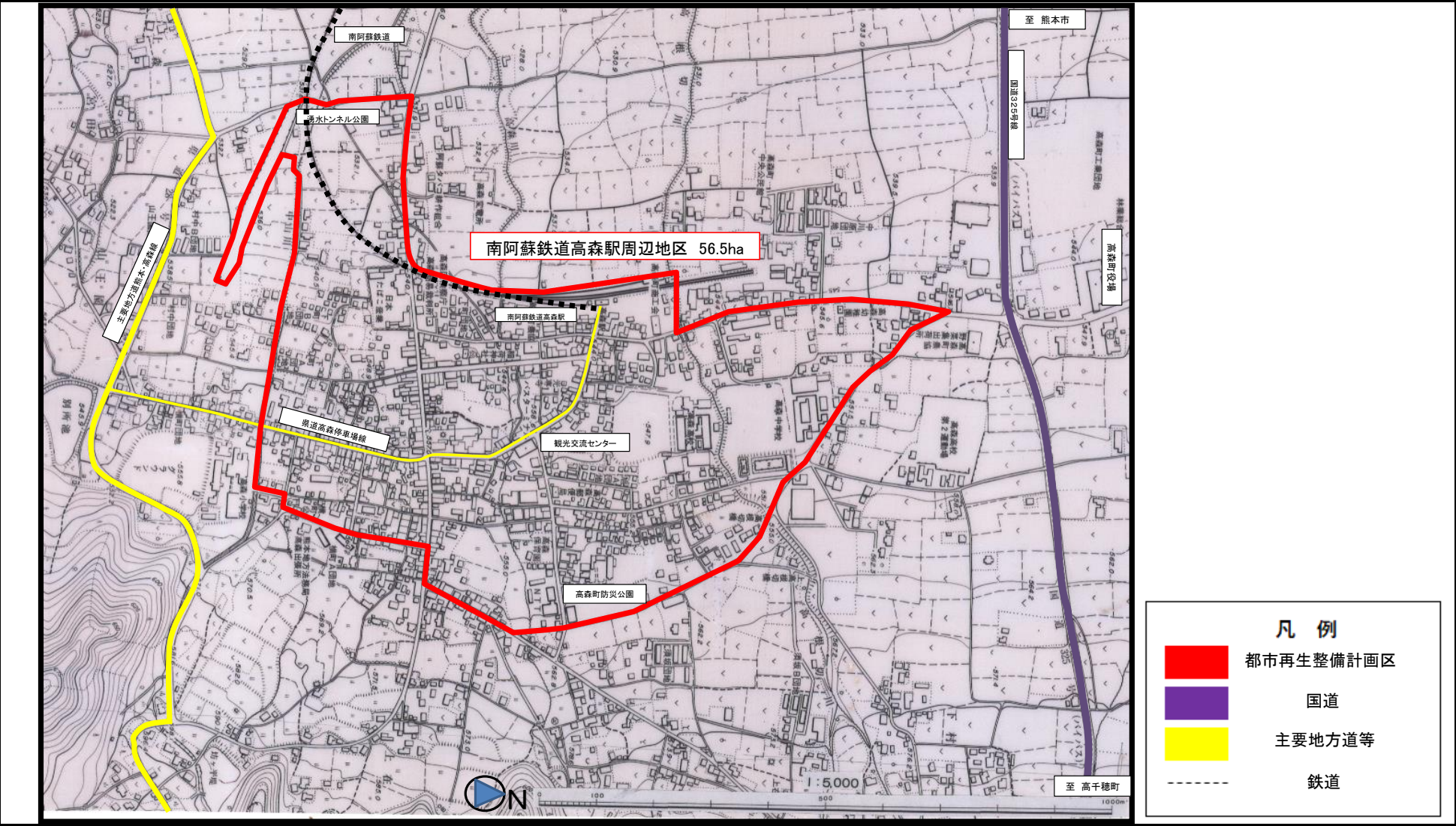
(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

0 ... B

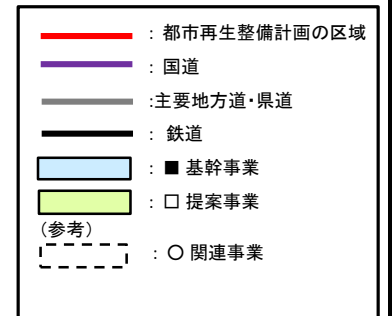
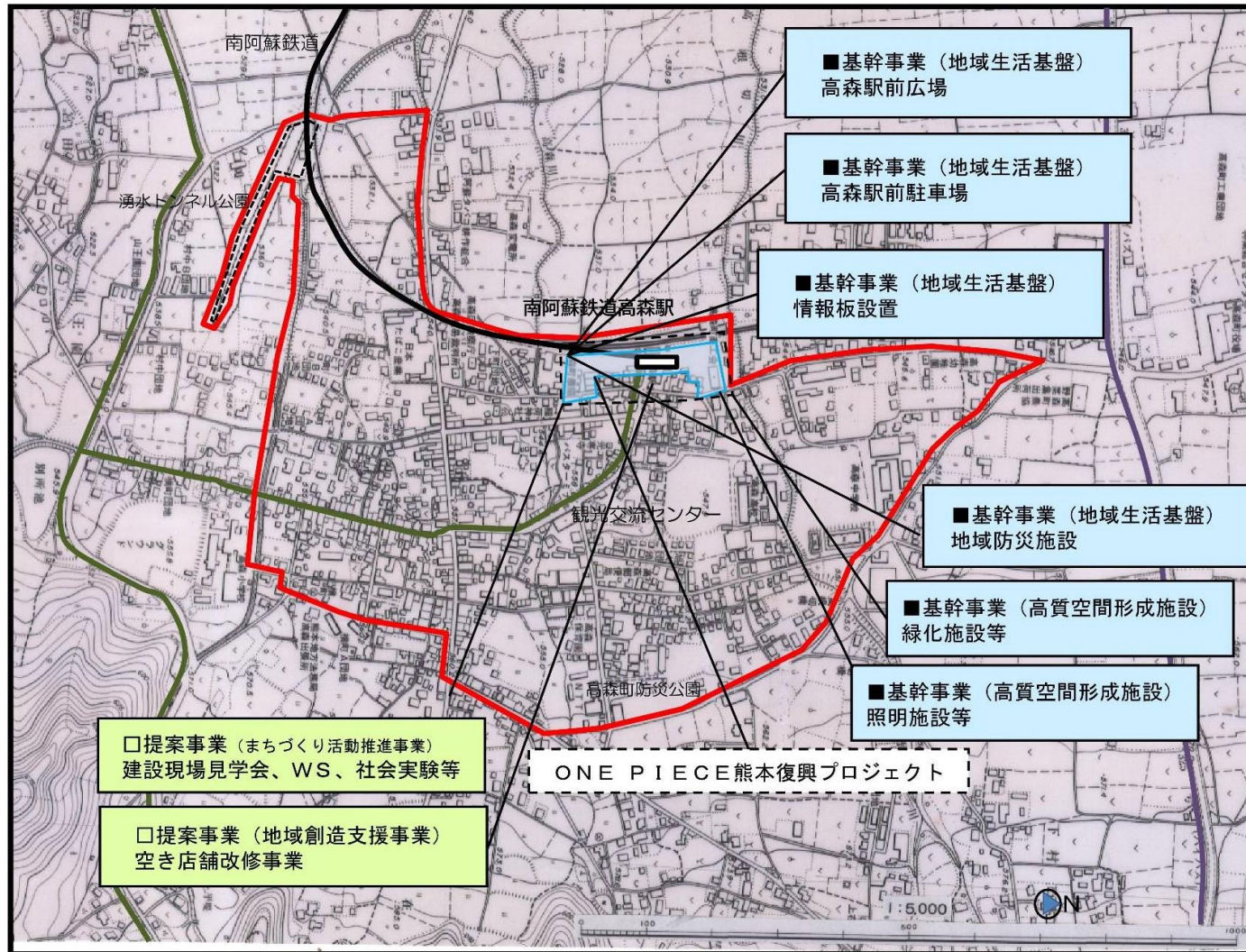
[illegible]

南阿蘇鉄道高森駅周辺地区(熊本県高森町)	面積	56.5 ha	区域	阿蘇郡高森町大字高森高森の一部
----------------------	----	---------	----	-----------------



たかもりまち
南阿蘇鉄道高森駅周辺地区(熊本県高森町) 整備方針概要図

目標	人と二次交通機能の集約と利用者の利便性を向上し、安全・安心で観光客をはじめ利用者の全てが心地よい交流拠点を実現する	代表的な指標	高森町への入込観光客数 (人)	793,320	(R1年度) →	1,000,000	(R5年度)
			南阿蘇鉄道年間輸送人員数 (人)	36,670	(R1年度) →	75,000	(R5年度)
			駅周辺での住民活動回数 (回)	2	(R1年度) →	6	(R5年度)



都市再生整備計画の添付書類等

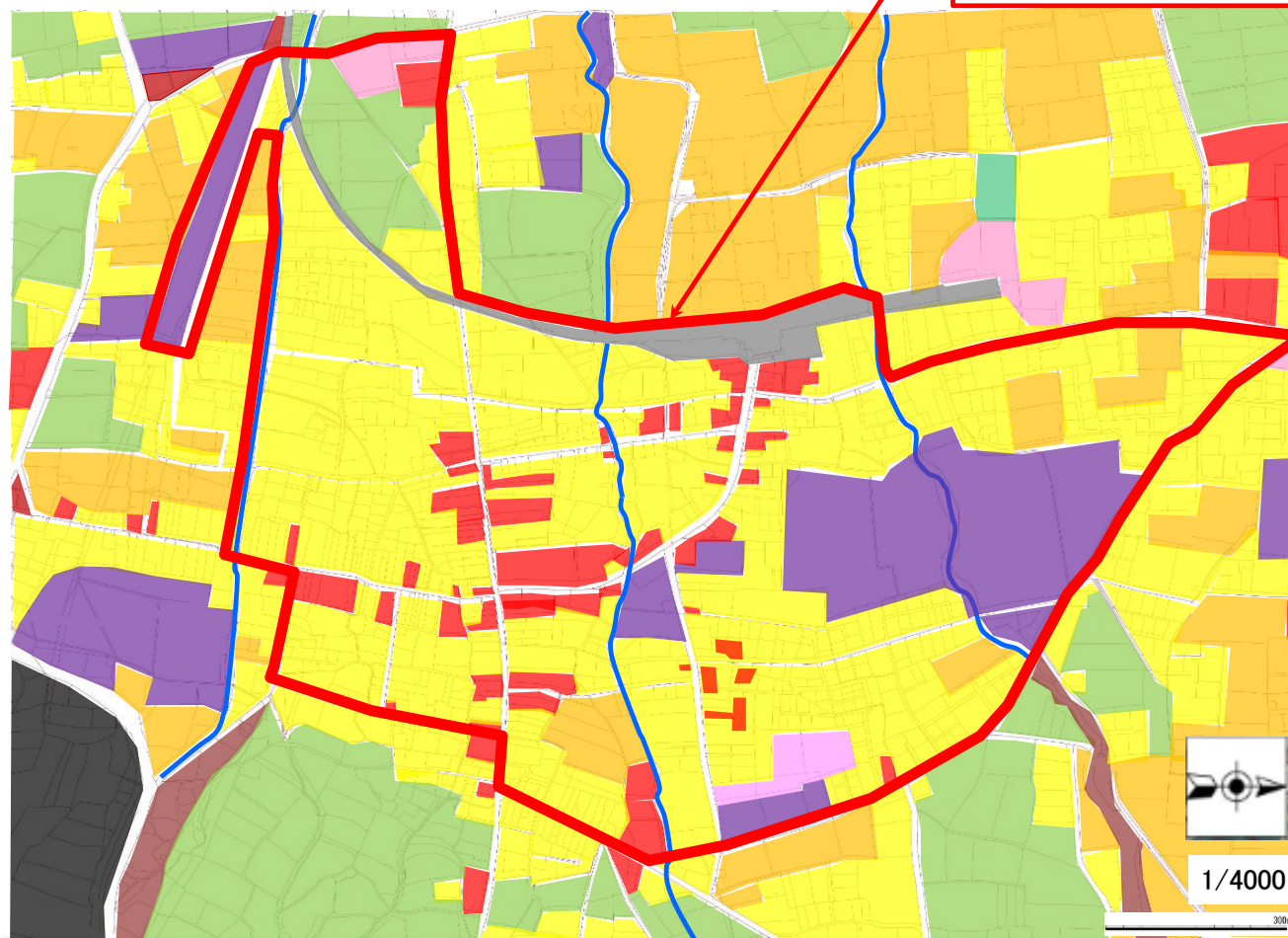
交付対象事業別概要

みなみあそ てつどう たかもり えき しゅうへん
南阿蘇鉄道高森駅周辺地区 くまもとけん たかもり まち
(熊本県高森町)

南阿蘇鉄道高森駅周辺地区(熊本県高森町) 現況図

南阿蘇鉄道高森駅周辺地区(56.5ha)

凡 例	
	田
	畑
	河川
	山林
	その他の自然地
	住宅用地
	店舗用地
	農林漁業施設用地
	公共公益施設
	公共空地
	交通施設用地
	道路用地
	都市計画再生整備計画区域



交付限度額算定表(その1)

南阿蘇鉄道高森駅周辺地区（熊本県高森町）

様式(2)-③

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額の合計(X)	137.8 百万円	規則第16条第1項に基づく交付限度額(Y)	3,457.0 百万円	X≦Yゆえ、 本計画における交付限度額	137.8 百万円
-----------------------------	-----------	-----------------------	-------------	---------------------	-----------

規則第16条第1項に基づく限度額算定

Au	226,000 ㎡
----	-----------

公共施設の上限整備水準

区域面積(㎡)	565,000
当該区域の特性に応じて国土交通大臣が定める割合	区域の面積が10ha未満の地区 0.50
	最近の国勢調査の結果による人口集中地区内 0.45
	○ その他の地域 0.40

Ci	9,950 円/㎡
----	-----------

単位面積あたりの標準的な用地費

標準地点数	4
公示価格の平均値(円/㎡)	9,950

単位面積あたりの標準的な補償費

当該区域内の戸数密度(戸/㎡)	
標準補償費(円/戸)	44,000,000

Cf	23,000 円/㎡
----	------------

控除額	320 百万円
-----	---------

まちづくり交付金とは別に国庫補助事業等により整備する施設

施設名(事業名)	面積(㎡)	国庫補助事業費等(百万円)
駅舎(地方創生拠点整備交付金)	528	170
交流施設(地方創生拠点整備交付金)	227	150
合計	755	320

各事業の交付要綱に掲げる式による交付限度額(活用する交付金の欄のみご記載ください。)

<都市構造再編集中支援事業>

交付限度額(X1)	百万円
-----------	-----

<都市再生整備計画事業>

交付限度額(X2)	137.8 百万円
-----------	-----------

<まちなかウォークابل推進事業>

交付限度額(X3)	百万円
-----------	-----

Ap	6430 ㎡
----	--------

公共施設の現況整備水準

整備水準が明らかになっている類似市街地等からの推定	
推定現況整備水準(小数第2位まで)	
推定公共施設面積(㎡)	0

個別公共施設の積み上げ	
-------------	--

	面積(㎡)	割合
道路	-	
公園	-	
広場	4,950	0.01
緑地	1,480	0
公共施設合計	6,430	0.01

Cnを考慮しない場合の交付限度額(Y1)	3457 百万円
----------------------	----------

ΣCn	0 円
-----	-----

下水道	0 円
区域面積(㎡)	565,000
うち現況の供用済み区域面積(㎡)	
標準整備費(円/㎡)	3,600

地域交流センター等の公益施設(建築物)	0 円
---------------------	-----

上限床面積(㎡)	9,400
標準整備費(円/㎡)	389,950

調整池	0 円
-----	-----

調整池の容積(㎡)	
標準整備費(円/㎡)	140,000

河川	0 円
----	-----

河川整備延長(m)	
標準整備費(円/m)	3,700,000

住宅施設	0 円
------	-----

建設予定戸数(戸)	超高層	
	一般	
	合計	0
標準整備費(円/戸)	超高層	一般
	北海道特別地区	41,310,000 33,500,000
	北海道一般地区	38,190,000 30,990,000
	特別地区	49,120,000 35,690,000
	大都市地区	37,170,000 30,180,000
	多雪寒冷地区	41,510,000 32,370,000
	奄美地区	39,520,000 35,640,000
	沖縄地区	30,280,000 30,280,000
	一般地区	33,700,000 28,640,000

市街地再開発事業による施設建築物	0 円
------------------	-----

施設建築物の延べ面積(㎡)	
標準共同施設整備費(円/㎡)	132,000

電線共同溝等	0 円
--------	-----

電線共同溝等延長(m)	
標準整備費(円/m)	680,000

人工地盤	0 円
------	-----

人工地盤の延べ面積(㎡)	
標準整備費(円/㎡)	5,300,000

協議して額を定める大規模構造物等	0 円
------------------	-----

大規模構造物等	協議状況	整備費(円)

Cnを考慮した場合の交付限度額(Y2)	3457 百万円
---------------------	----------

交付限度額算定表(その2)(都市再生整備計画事業)

交付要綱に掲げる式による限度額算定(詳細)

※水色のセルに事業費等必要事項を入力して下さい。(事業費の単位:百万円)

○交付対象事業費

交付対象事業費	基幹事業合計(A)	333.500	A (事業費)	⇒ 1)式で求まる額(4/10*(A+B))	137.800	① (国費)
	提案事業合計(B)	11.000	B (事業費)	⇒ 2)式で求まる額(5/9*A)	185.278	② (国費)
	合計(A+B)	344.500	(事業費)	⇒ 上記①、②の小さい方	137.800	③ (国費)
	提案事業割合(B/(A+B))	0.032		⇒ 国費率(③÷(A+B))	0.400	④ (国費率)

○拡充の有無

以下の2つの拡充のうち、いずれかの拡充がある場合は、該当する欄に○を入力。

・3)式の適用[提案事業枠2割拡充]		(選択)	⇒ ③)式で求まる額(5/8*A)	0.000	⑤ (国費)
・4)式の適用[都市再生緊急整備地域等の国費率45%拡充]		(選択)	⇒ ③)式の適用後(適用がある場合は3式反映)	137.800	⑥ (国費)
			⇒ ③)式適用後の国費率(⑥÷(A+B))	0.400	⑦ (国費率)

○4)式の適用がある場合の事業費等

4)式の適用がある場合は、以下に事業費等を入力。

4)式の適用を受ける場合	計画の認定等の年度末までの執行事業費(F)		F (事業費)	⇒ 適用前の国費率※		⑧ (国費率)
	適用対象となる交付対象事業費(A''+B'')	0.000	(事業費)	⇒ ※計画認定日の属する年度の年度末における1)式から3)式を適用して算出した交付限度額を交付対象事業費の事業費で除した値		
	適用対象となる基幹事業合計(A'')		A'' (事業費)	⇒ 適用対象事業費から求まる限度額	0.000	⑨ (国費)
	適用対象となる提案事業合計(B'')		B'' (事業費)	⇒ 適用後の国費率(⑨÷(A''+B''))	#DIV/0!	⑩ (国費率)
	適用対象事業のうち翌年度以降の執行事業費(H)		H (事業費)	⇒ 4)式適用後の限度額(⑧×F+⑩×H)	#DIV/0!	⑪ (国費)

※都市再生整備計画事業の当初から4)式の適用を受ける場合は、Fの欄を記入せず、A''、B''を記入し、A''=A、B''=B、H=A''+B''=A+Bとなる。

↓

交付限度額	137.800	⑫ (国費)
-------	---------	--------

○交付限度額、国費率

交付対象事業費(A+B)	344.5	(事業費)	⇒ 交付要綱に基づく交付限度額(⑫を1万円の位を切り捨て)	137.8	⑬ (国費)
			⇒ 国費率	0.400	⑭ (国費率)

年次計画（都市再生整備計画事業）

様式(2)-⑤-2

（事業費：百万円）

基幹事業										
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
道路										
公園										
古都保存・緑地保全等事業										
河川										
下水道										
駐車場有効利用システム										
地域生活基盤施設		広場	高森町	240.0	68.0	172.0				
		駐車場	高森町	4.5		4.5				
		情報板	高森町	17.0		17.0				
		地域防災施設	高森町	42.0		42.0				
高質空間形成施設		緑化施設等	高森町	15.0		15.0				
		照明施設等	高森町	15.0		15.0				
高次都市施設	地域交流センター									
	観光交流センター									
	まちおこしセンター									
	子育て世代活動支援センター									
	複合交通センター									
既存建造物活用事業										
土地区画整理事業										
市街地再開発事業										
住宅街区整備事業										
バリアフリー環境整備促進事業										
優良建築物等整備事業										
住宅市街地総合整備事業										
街なみ環境整備事業										
住宅地区改良事業等										
都心共同住宅供給事業										
公営住宅等整備										
都市再生住宅等整備										
防災街区整備事業										
計				333.5	68.0	265.5	0	0	0	0

提案事業										
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
地域創造 支援事業	空き店舗改修	高森駅前空き店舗活用	高森町	5.0	5.0					
事業活用 調査										
まちづくり活動 推進事業	駅前空間賑わい創出事業	工場見学、WS、イベント	高森町	3.0	1.0	2.0				
	駅前空間賑わい創出事業	イベント開催	高森町	3.0	1.0	2.0				
計				11.0	7.0	4.0	0	0	0	0
合計				344.5	75.0	269.5	0	0	0	0
累計進捗率（％）					21.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（参考）都市構造再編集中支援事業関連事業										
事業	事業箇所名		事業主体	交付対象 事業費	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
合計				0	0	0	0	0	0	0
累計進捗率（％）					#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

（参考）関連事業										
事業	事業箇所名		事業主体	全体 事業費	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度
合計				0	0	0	0	0	0	0
累計進捗率（％）					#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

地域生活基盤施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名 (路線名等)	事業主体	概要 (面積、幅員、 延長、規模等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳				備考
					設計費	用地費	施設整備費	うち購入費	
緑地								—	
広場	高森駅前広場	高森町	4,950㎡	240.0			240.0	—	
駐車場	高森駅前駐車場	高森町	2,400㎡	18.0			18.0		交付対象事業費 4.5百万円
自転車駐車場									
荷物共同集配施設									
公開空地								—	
情報板	情報案内板	高森町	34箇所	17.0			17.0	—	
地域防災施設	施設種別:発電施設	高森町	30kVA 1基 50kVA 1基	42.0			42.0	34.0	
人工地盤								—	
合計	—	—	—	317.0			317.0	34.0	

事業名	地域生活基盤施設（広場）	基本方針
-----	--------------	------

【課題】

南阿蘇鉄道高森駅の駅前広場は約2,600m²の広さを持ち、56台分の一般駐車場と3台のバス停留場を備えているが、下記のような課題を抱えている。

- ①ロータリーが未整備のため、バス車両転回スペースと一般車両、歩行者動線が重なり危険な空間となっている。
- ②タクシー、コミュニティバス、長距離旅客バス、観光バスの乗り場が同位置にあり、特に駅を訪れる観光利用者の混乱を招いている。
- ③上記の乗り場にシェルターがないため、雨天時の乗継ぎに難があり利用者の利便性が欠如している。
- ④駅前広場は交通機能のみならず、観光拠点としての象徴的な景観機能を備えた町の玄関口でなければならないが、施設の老朽化や観光客、利用者のニーズの増加によりそれらの機能が欠如している。



駅前広場の現況



観光客の入込に対応できていない駐車スペースの状況



観光バスと一般車両が同敷地に駐車

【方針】

適切な交通処理により、駅利用者と2次交通機関の安全性を高め、移動サービスを向上し、特に観光客の乗り継ぎ利便性を向上する。観光の玄関口として駅前広場を町の顔となるデザインとすることで、基幹産業である観光を振興しつつ、有事の際の観光客の防災拠点も形成し、安全・安心で全ての利用者が心地よい交流拠点を実現する



整備イメージ

【整備方針】

設計前に実施したワークショップやパブリックコメント、公共交通機関からのヒアリング等に基づき、交通施設の再配置を行うとともに、移動サービス、交通処理、シンボル性の向上を図り、賑わいを中心市街につなげる駅前広場を整備する。

1. 移動サービスの向上

交通施設を再配置するとともに、それらへ安全・安心に移動できるよう歩行空間やシェルター等の設置を行う。

2. 交通処理の向上

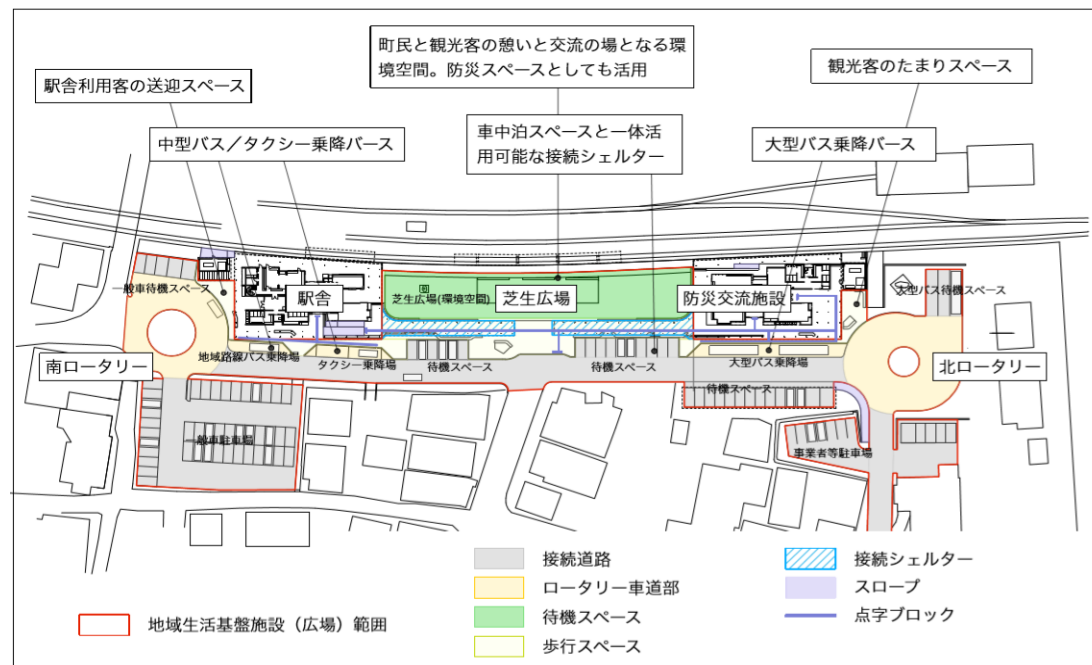
駅前広場敷地内に2つのロータリーを整備するとともに、計画地内道路を整序化することによって、駅利用者と観光・交流目的の訪問者の動線を分離し、安全な交通処理を図る。

3. 有事の際の防災性の向上

平成28年（2016年）熊本地震時の住民や観光客の車中避難の行動を振り返り、発災時の住民や観光で訪れている観光客の車中避難機能を有する防災機能を整備する

4. シンボル性の向上

町民と観光客が憩い、交流できる芝生広場（環境空間）を整備し、賑わいを創出するとともに、バリアフリー化や一体性を考慮し、広場内をデザインすることで、シンボル性・利便性を高める。



事業名	地域生活基盤施設（広場）	事業箇所名	高森駅前広場
-----	--------------	-------	--------

【事業概要】

カルデラに沈む夕日を背景に地域シンボルの鉄道車両が入場する、という敷地特性を活用した広場を整備し、地域の生活基盤とする。広場を駅舎、防災交流施設、回廊（接続シェルター）で囲むことで、居心地のよい場所が散りばめられた、賑わいにあふれた交流空間を実現する。鉄道の車窓、まちなかからの視認性を高めるため、回廊のゲート部分には地産木材を活用した棟屋を整備する。広場の中心に接続する駅前通りを歩行者の回遊性の軸とするために、車両動線は左右2つのロータリーに振り分け、安全な歩行者動線を確保するとともに、駅舎と地域交通（タクシーおよび町民バス）、防災交流施設と大型バス（観光バスおよび長距離路線バス）の乗り継ぎ利便性の向上をはかる。

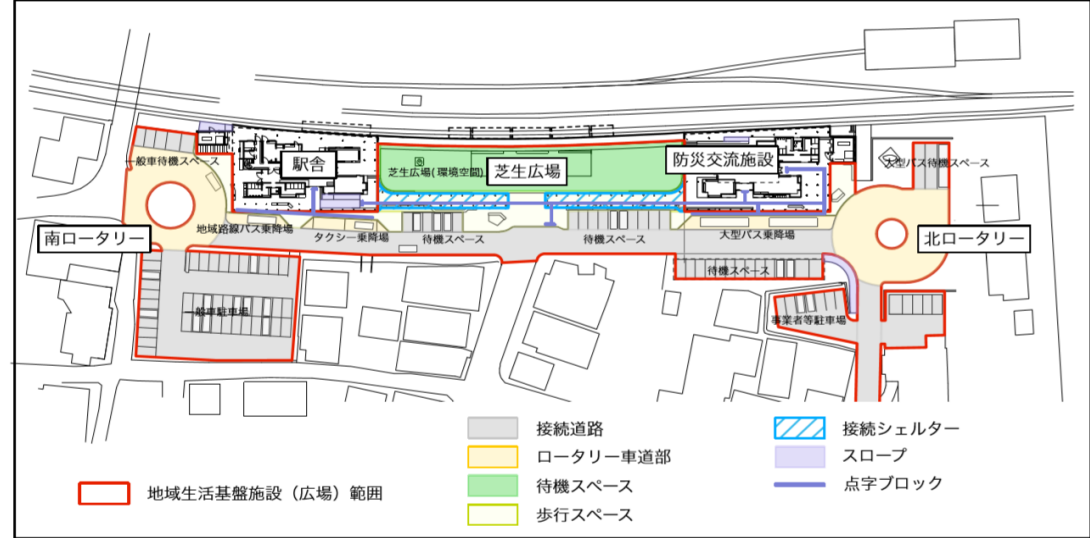
【工事概要】

舗装工事	接続道路	1,250㎡
	ロータリー車道部	1300㎡
	待機スペース	900㎡
	歩行スペース	800㎡
施設工事	接続シェルター	250㎡
バリアフリー工事	点字ブロック	220m
	スロープ	2箇所

【事業費概算】

施設整備費	237百万円
バリアフリー工事費	3百万円
（令和3年度:68百万円 令和4年度:172百万円）	

【レイアウトイメージ】



■プレイヤーを育てる広場
駅前広場の本設整備に先立つ取り組みとして、時限的に拠点施設および芝生広場・舗装広場を設け、将来に向けた人の滞留や賑わい創出のチャレンジを行った。
収益事業型の広場の運営・管理モデルを発展させ、プレイヤーを束ねるマネージャーを軸とした公益事業を行うことで、まちなかの広場の新しい公民連携モデルを実現した。

■文化創造の場となる駅前広場
十分に活用できていなかった駅前広場を「産業・観光振興」、「にぎわいづくり」、「文化・音楽発信」を3本柱とする賑わい拠点に再整備した。観光拠点となる総合案内所のほか、カフェ、サイクリングショップ、遊具、野外ステージを備える。整備とともに運営体制を整え、オープン2年目にして市民提案のイベントが過半を超える文化創造の場となった。

事業名	地域生活基盤施設（駐車場）	事業箇所名	高森駅前駐車場
-----	---------------	-------	---------

【事業概要】

地域公共交通拠点として自家用車と公共交通の接続性を向上するため、86台分の駐車場（一般自家用車：82台、バリアフリー対応：4台）を整備する。

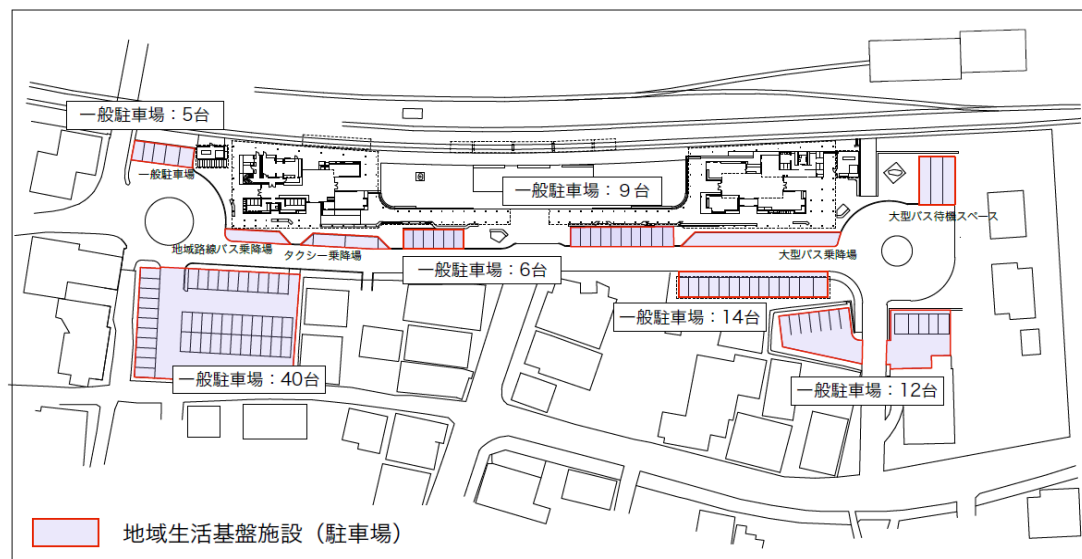
バリアフリー対応の駐車場（駅舎側2台／防災交流施設側2台）は屋根付きのものとして、利用者の利便性を考慮したものとする。

【工事概要】

舗装工事 一般駐車場 2,400㎡

【事業概要】

施設整備費 18百万円
（令和4年度：18百万円）



イメージ図



■駅舎デザインと調和する駐車場計画

一時駐車場と一般駐車場を分けて整備した駅整備の事例。一時駐車場をロータリー内にコンパクトに整備し、見送り・出迎え利用者の利便性を確保した。電柱や附帯設備を極力配したすっきりとした道路計画は、ヒノキのルーバーをファサードに用いた駅舎と調和を見せている

イメージ図



■施設に個性を与える駐車場サイン計画

美術館の駐車場のサイン計画。自動車アクセスする施設利用者也サイン計画の対象と捉え、施設全体を通して一貫性のある交通誘導を行い、施設に個性を与えた。簡便な方法で施設に個性と明快さを与えた計画により、2014年、日本サインデザイン協会のサインデザイン優勝賞を受賞している。

事業名	地域生活基盤施設（情報板）	事業箇所名	高森駅前広場
-----	---------------	-------	--------

【事業概要】

観光客に対し観光交流拠点としての適切な情報提供と、地域公共交通拠点としての利便性の向上のため、現広場や駅舎内において不足している案内サインを増設し、施設利用者に支障がないよう誘導サインの配置に留意し、誰もが分かりやすい情報板を整備する。また、鉄道とバス等の二次交通の時刻表情報、施設内で行われるイベント情報、有事の際の災害情報をひとつの画面内でデジタルサイネージにより計画し、多言語で必要かつ大量の情報提供を行う。

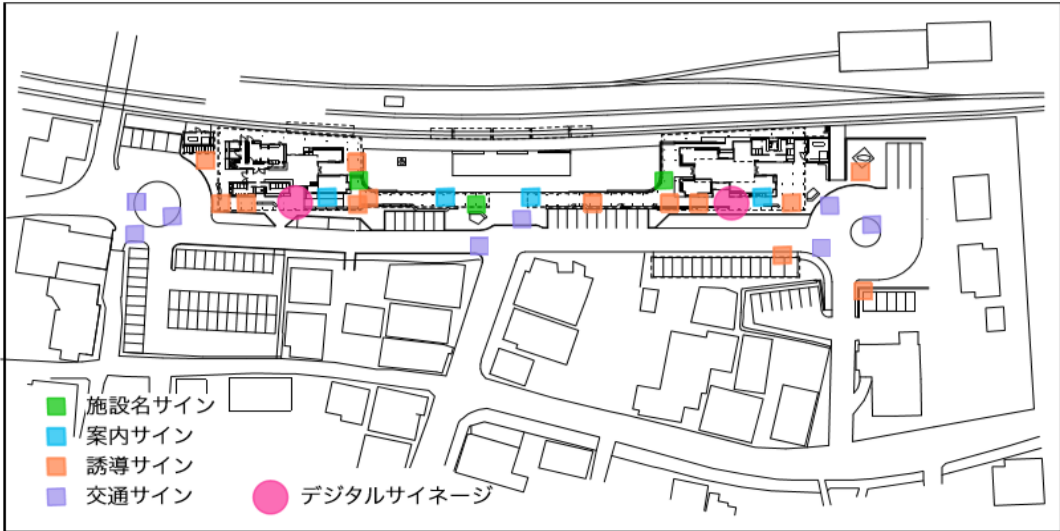
【工事概要】

施設名サイン 3箇所
デジタルサイネージ 2箇所
案内サイン 4箇所
誘導サイン 15箇所
交通サイン 10箇所

【事業費概算】

施設整備費 17百万円
（令和4年度：17百万円）

【レイアウトイメージ】



福岡西鉄天神高速バスターミナル

デジタルサイネージにより、バス離発着情報と地域観光情報を整然と提供している。多言語表記に対応し、インバウンドの観光客への適切な情報提供も行っている。



施設名サイン



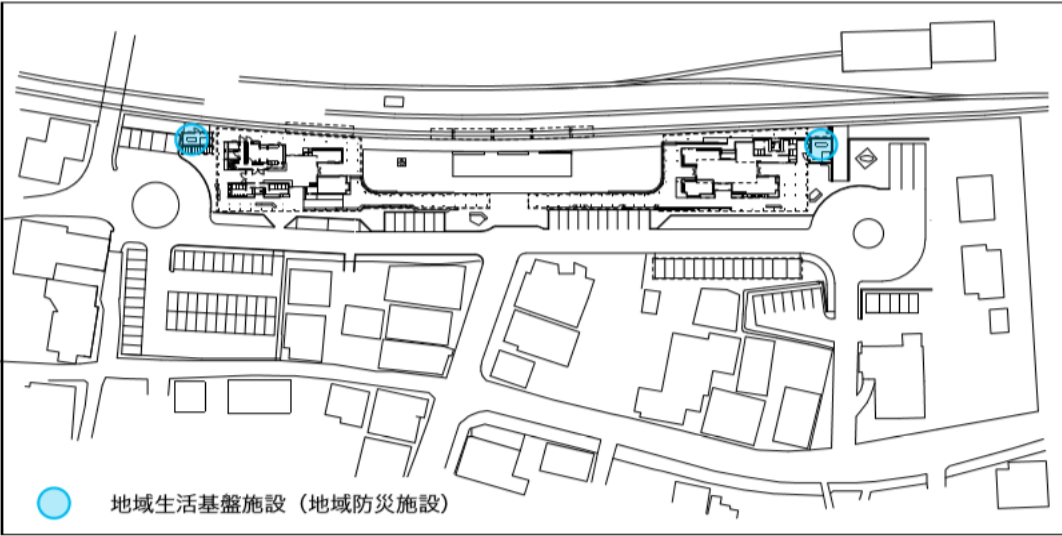
案内サイン



誘導サイン



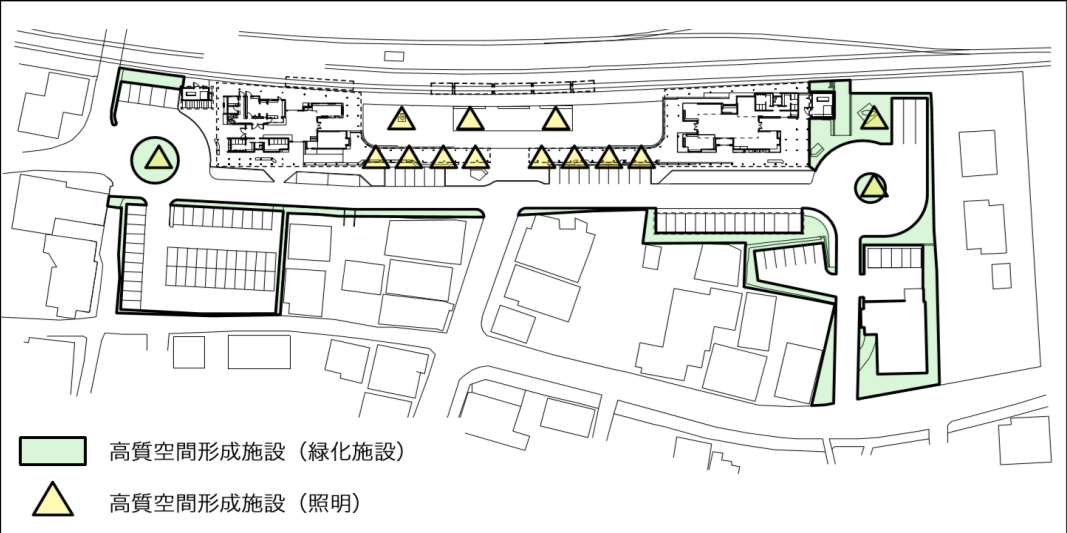
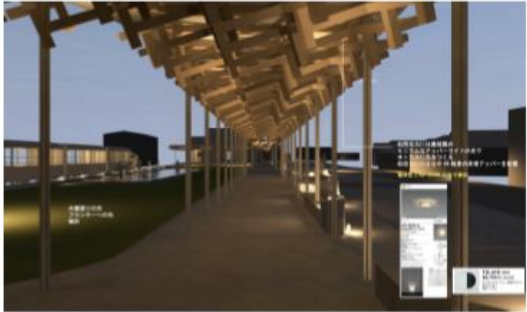
交通サイン

事業名	地域生活基盤施設（地域防災施設）	事業箇所名	高森駅前広場
【事業概要】 平成28年4月の熊本地震によって多大な被害を受けた高森町にとって、中心市街地における防災施設の整備は地域住民のくらしの安心安全の確保に大きな役割を担う。「南阿蘇鉄道沿線地域公共交通網形成計画」（平成30年）では高森駅の防災拠点としての位置づけがなされ、「南阿蘇鉄道高森駅周辺グランドデザイン」では施設全体を車中泊対応とする指針が示されるなど、災害時の様々な局面を想定した施設整備が必要とされている。 本計画では、地域住民のみならず、駅来訪者や一時的に観光に訪れている観光客に安全な避難施設を提供できるよう、駅舎および交流施設のそれぞれについて、発災後3日間(72時間)の運用を可能とする非常用電源の整備を計画する。 【工事概要】 設備工事 非常用発電機設置2基 非常用発電機（30kVA） 1基（設置工事25㎡） 非常用発電機（50kVA） 1基（設置工事35㎡） 【事業費概算】 施設整備費 42百万円 （令和4年度：42百万円） 【発電機仕様根拠】 ・ <u>新駅舎設置用（30kVA）</u> 発災後、72時間以上の鉄道安全運行の最低限の確保を想定。 主に運行に関わる施設や諸室のみ電源供給を想定。 ※(25W40灯＋500Wコンセント8箇所)×72時間稼働で30kVA の容量を計画 ・ <u>防災交流施設（50kVA）</u> 発災後、他の避難施設と連携し、主に観光客の避難場所や車中避難所として機能するよう想定。 全館に電源を供給し、携帯電話等の充電や、炊き出し等の提供も可能としている。 ※（25W80灯＋500Wコンセント16箇所×72時間稼働で50kVAの容量を計画		【レイアウトイメージ】  ● 地域生活基盤施設（地域防災施設） ■メンテナンス性の高い非常用発電機システム 防災用、一般非常用としてライフラインを守るディーゼルエンジン発電装置。停電検出後40秒で自動で始動し商用電源から発電電源に切り替える（復電後は自動で商用電源に切り替え）。事前設定した時刻にテスト運転をする自動メンテナンス機能付。 	

高質空間形成施設

単位:百万円

交付対象施設	施設名	事業主体	概要 (箇所数、規模等)	交付期間内 事業費	交付期間内事業費内訳			備考
					設計費	用地費	施設整備費	
緑化施設等(植栽・緑化施設、せせらぎ・カスケード、カラー舗装・石畳、照明施設、給電・給排水施設、ストリートファニチャー・モニュメント、土塁、堀跡等)	高森駅前広場	高森町	敷地外周緑化1,480㎡ 照明設置 230箇所	30.0			30.0	
電線類地下埋設施設								
電柱電線類移設								
地域冷暖房施設						—	—	
歩行支援施設、障害者誘導施設等								
情報化基盤施設								
合計	—	—	—	30.0			30.0	

事業名	高質空間形成施設（緑化施設・照明施設）	事業箇所名	高森駅前広場
【事業概要】		【レイアウトイメージ】	
「高森町景観計画」（平成27年）、「阿蘇の文化的景観保存計画」（平成29年）、「熊本県景観計画」（平成30年）等により、計画区域は、既存の美しい景観を保全・創出することが求められ、新たな観光の玄関口となる高森駅前広場は、こうした景観の形成について周囲と調和の取れた、グレードの高い空間形成が求められる。 本計画では芝生広場を中心に、敷地の周縁部に在来種を活かした植栽を計画し、「野の花と風薫る郷」を掲げる高森町の美しい自然文化の発信と居心地のよい空間の形成を図り、敷地と周辺住宅地の境界部においては、プライバシーを重視して混植生垣や高木などでバッファゾーンを形成し既存住宅との共生を調整する。 更に、景観上位諸計画において、照明計画も景観の魅力向上に寄与するものとされており、夜間景観の質の向上が求められていることから、本計画では夕刻から夜間にかけての「サンセット・アワー」の時間帯に注目し、まちづくりや観光発信に貢献する照明配置を計画する。		 ■ 高質空間形成施設（緑化施設） ▲ 高質空間形成施設（照明）	
【工事概要】		イメージ図  ■ 水と緑に溢れた街のシンボル空間 駅前に設けられた交流・憩いの拠点広場。歴史的施設である地域の用水を広場に導き、緑と水に溢れた街のシンボリック空間を実現した。 高木／低木／地被植栽／水際植栽に分類される植栽は、地域の多様な自然文化を発信しつつ、居心地のよい空間を市民に提供している	
緑化施設工事 敷地外周緑地 1320㎡ ロータリ一部 160㎡ 照明施設工事 芝生広場 30箇所 接続シェルター部 150箇所 敷地外周部 50箇所		【照明デザインのコンセプト】 日没30分前～30分後の1時間を町民と観光客が広場に集まる「サンセットアワー」と捉え、夕日を見に来た人々の興味を夜景へと移行させるための細やかな夜景演出を行う。回廊部の町産材の木組みの凹凸をアップライトを用いて行う。 	
【事業費概算】			
緑化施設工事 15百万円 （令和4年度：15百万円） 照明施設工事 15百万円 （令和4年度：15百万円）			

事業活用調査・まちづくり活動推進事業・地域創造支援事業

(単位:百万円)

[illegible]

事業名	地域創造支援事業	事業箇所名	空き店舗改修
-----	----------	-------	--------

【事業概要】

現状の駅前には観光案内所がなく、駅を利用し管内を初めて訪れる観光客は、約350m先の観光案内所（高森町観光協会）へ出向かなくなくてはならず、バックパッカーやスーツケース等の大荷物を抱える観光客に対し非常に不便なおもてなしスタイルとなっている。そのため、高森町の観光の玄関口として、駅から観光地各地へスムーズに観光客が旅立てるよう、駅前に位置する地域版DMO店舗前の空きスペースを改修し、観光協会直営の観光案内所を整備し、高森駅から観光圏における周遊性を創出する。

【活動概要】

空き店舗改修 40㎡

【事業費概要】

5百万円
（令和4年度：5百万円）

【活動イメージ】



店舗入り口までテラスが設けられているが、用途に乏しくデッドスペースとなっている

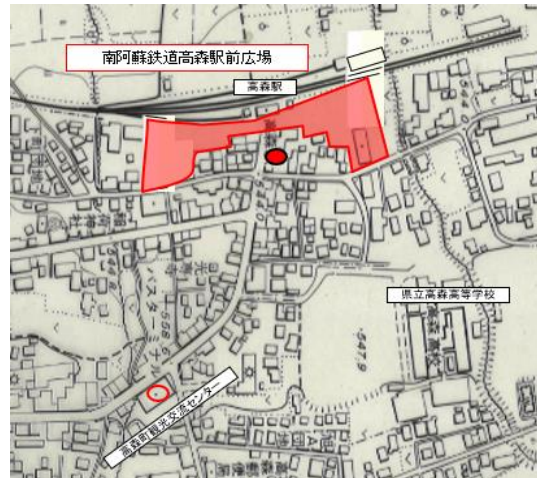


一般社団法人TAKAraMORI（正面より）
※駅に面しているが何の施設・用途から分かり辛く、観光客が気軽に立ち寄る事ができない。

【事業の位置付け】

事業	R 3				R 4	
駅前広場（基幹工事）	工事					工事完成
地域創造支援事業	空き店舗改修					
駅前空間賑わい創出事業 住民参加による賑わい創出支援		工事見学会	WS、シンポジウム	専門家会議開催	社会実験実施	

【位置図】



- 凡 例
- 現観光案内所
 - 新観光案内所計画地

事業名	まちづくり活動推進事業	事業箇所名	駅前空間賑わい創出事業
-----	-------------	-------	-------------

【事業概要】

駅前広場等は、鉄道利用者だけが利用する施設でなく、住民活動を通じて住民や観光客の多くの人に利用される多目的な施設となり、地域活動の拠点的役割を担う空間となる必要がある。そのため、工事段階より建設現場見学やワークショップを開催し、利用者となる住民と一体となり整備後の空間利用の方法や管理体制を検討することで、施設への愛着信を育む。また、整備した駅広間に持続的な賑わいを創出するためには、駅前空間における住民活動の活発化が求められる。そのため、駅空間利活用の先行事例や社会実験実施の支援を通じて住民活動を活発化する。また、住民活動が継続して自立的・継続的に行われるよう専門家による検証等を行い、持続可能な駅前の賑わいを創出する。

【活動概要】

- ・建設現場見学会
- ・住民ワークショップ
- ・住民参加型シンポジウム
- ・社会実験実施
- ・専門家会議の開催、運営

【事業費概要】

委託費 令和3年度：2百万円
令和4年度：4百万円

【事業の位置付け】

事業		R 3			R 4		
駅前広場（基幹工事）	工事	→			→		
地域創造支援事業	空き店舗改修						
駅前空間賑わい創出事業 住民参加による賑わい創出支援			工事 見学会	WS、 シンポ ジウム	専門家 会議 開催	社会実 験実施	工事完成

【活動イメージ】

イメージ図



▲地域住民の工事見学の様子

イメージ図



▲住民が誰でも参加できる
シンポジウム開催の様子

イメージ図



▲駅の賑わい創出をテーマにしたWSの様子

イメージ図



▲駅前広場を活用した人気キャラ
をフックとしたイベントの開催

イメージ図



▲駅前広場を活用した社会実験開催の様子

都市再生整備計画事業事前評価シート

計画の名称:南阿蘇鉄道高森駅周辺地区都市再生整備計画 事業主体名:熊本県高森町

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2)上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1)十分な事業効果が確認されている。	○
2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1)まちづくりに向けた機運がある。	○
2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3)計画について住民等との間で合意が形成されている。	○